

2026 年 5 月期（2025 年度）通期 決算説明会 質疑応答（要旨）

2026 年 5 月期（2025 年度）通期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）での主な質疑応答を掲載いたします。なお、本文は理解促進のため、一部加筆・修正を行っております。

Q1： 2026 年度における要素部品事業の売上高実績（連結）について。第 1 四半期～第 3 四半期までの横ばい推移から、第 4 四半期には好調に推移した背景と、今後の持続性について。

A1： 要素部品事業の業績が第 4 四半期から好調に推移した背景には、大きく以下の 3 つの要因があった。

①大口顧客を含む、半導体等のエレクトロニクス業界向けの需要回復（光学素子・薄膜製品、光学基本機器製品）

②調芯システムの需要増加（自動応用製品）

③米国・中国等の海外地域での需要回復（全セグメント）

経済環境は、各国金融政策や地政学リスク、エネルギー価格や材料調達懸念など、先行き不透明感が強く、需要動向を楽観はできないが、いずれの需要も足元では堅調に推移していることから、一過性のものではないと考えている。

Q2： 調芯システムの顧客は、どの業界向けが多いのか。

A2： シンガポールでは、量子等の研究機関向けや、AI ビッグデータに関連した PIC・CPO 等の産業分野向けが多い。その他地域においても、AI ビッグデータ関連の PIC・CPO 等のエレクトロニクス業界向けの需要が増えている。

Q3： 2026 年度（2027 年 5 月期）の通期予算（連結）における増益要因の内訳を教えてください。

A3： 売上高の増加や、光学素子・薄膜製品等の売上高構成比率の向上による製品 MIX の変化によって材料費等が改善され、利益に貢献する見込み。費用面においては、大きな費用執行はないが、人件費が増加すると見込んでいる。

Q4： 2026 年度（2027 年 5 月期）におけるカタログ製品の価格改定効果は、前年度と同じ程度伸びるのか。

A4： 価格改定によって改善した利益率は、今期も維持されると想定している。一方、前期との比較においては比較対象の前期が価格改定後となるため、価格改定前の時期が大半を占める前々期を比較対象とする前期実績に比べて、価格改定による今期の増加額は小さくなる。価格改定については、引き続き需要動向等を踏まえて、継続的に検討していく予定だが、今期における価格改定効果については、主に価格改定により改善した利益率を維持した上での、需要回復・増加等による数量増に係る増益効果を見込んでいる。

Q5： 2026年6月の受注が好調だということだが、セグメント別の内訳を教えてください。どこ向けが強いのか。

A5： 全セグメントが好調に推移した。その中でも、以下の3つの領域が強い。

- ①光学素子・薄膜製品（大口顧客を含むエレクトロニクス業界向け等）
- ②調芯システム（量子研究の学術分野やPIC・CPOや半導体関連向け等）
- ③システム製品（スポット案件含む）

Q6： 調芯システムのマーケットについて、地域別に分類してほしい。

A6： 調芯システムは、アジア地域（シンガポール、台湾、日本）、米国、欧州等で需要がある。

各地域別のマーケットは、以下のとおり。

- ①シンガポール：量子等の研究分野向けやPIC・CPOの産業分野向け。
- ②台湾：PIC・CPOや半導体関連。
- ③日本：PIC・CPOや半導体関連と一部通信関連。
- ④米国：PIC・CPOや半導体関連。

特に、シンガポールと台湾向けでポテンシャルが高い。

以上